

編集後記

コロナ禍が続く中、2021年12月19日(日)に東洋大学を開催校として第4回研究大会がオンラインで挙行された。第3回研究大会と同様に、対面式で開催できず、やむなく延期の上にオンラインで開催された。年末の忙しい中、討論に参加された会員は下記のとおりである(五十音順)。

池田公司(甲南大学)	市川紀子(駿河台大学)	一由俊三(税理士)
岩崎 勇(大阪商業大学)	大下勇二(法政大学)	越智信仁(関東学院大学)
小野正芳(千葉経済大学)	梶原太一(高知県立大学)	金子友裕(東洋大学)
加納輝尚(昭和女子大学)	許 英姿(明治大学)	郡司 健(大阪学院大学)
菊谷正人(法政大学名誉教授)	柯 瓊鳳(東呉大学)	坂内 慧(福山大学)
島本克彦(大阪経済法科大学)	島永和幸(神戸学院大学)	白木俊彦(南山大学)
神納樹史(東京経済大学)	杉山晶子(東洋大学)	仙場胡丹(名古屋大学)
塚原 慎(帝京大学)	鳥飼裕一(東洋大学)	中嶋隆一(情報経営イノベーション 専門職大学)
長濱照美(福山大学)	西山一弘(帝京大学)	中村亮介(筑波大学)
藤井秀樹(金沢学院大学)	松井泰則(大原大学院大学)	松下真也(松山大学)
吉田智也(中央大学)		

「グローバル会計学会設立趣旨書」に示しているように、本来的には、グローバリゼーションを指向する「国際会計研究」は、企業活動の国際化に伴う会計実践(多国籍企業会計論)、会計制度の国際比較(比較会計制度論)およびその派生課題である会計基準の国際調和化(現在では、会計基準国際収斂)を取り扱う会計分野として成立している。本研究大会においても、財務会計(収益認識基準の実証研究)、比較会計制度(台湾・中国におけるIoT産業比較)、監査論(監査のデジタル化)、国際税務会計(経済のデジタル化による国際課税制度)と多岐にわたる研究テーマが報告された。各報告時間は25分、参加者からの質疑応答は15分であり、活発かつ建設的な討論が行われた。

このような濃密な議論を参考にして加筆・修正された報告論文は投稿されたが、残念ながら諸般の都合により投稿辞退もあった。編集委員会は、各投稿論文について複数のレフリーを選び、編集委員長から査読を依頼した。投稿論文は、複数の匿名レフリーにより査読され、編集委員会の審議を経て2篇の査読付き論文が掲載されることになった。

本号からは、会員の申請に基づき「会員業績」が掲載されている。会員相互で研究領域を認識し、研究の交流を促進できるならば、本機関誌の存在意義は高まるであろう。さらに、理事会における慎重な審議・決議の上、本機関誌の内容をウェブサイトを提供することになった。公表後1年目から、一般公開する予定である。

なお、匿名レフリーの先生方には、公私ともに忙しい中、無料にも拘わらず、本機関誌の品質向上・維持のために公正かつ真摯に査読して頂いた。本学会に対する陰の貢献に心より敬意を表するとともに、厚くお礼申し上げる次第である。

最後に、本機関誌の編集にかかわった編集委員会メンバー(第2期:2021年4月1日-2024年3月31日)は次のとおりである。なお、吉田委員は投稿メンバーの一人であったために、今回の編集作業と査読には携わっていない。

編集委員長：菊谷 正人（法政大学名誉教授）

編集委員　：池田 公司（甲南大学教授）

溝上 達也（松山大学教授）

吉田 智也（中央大学准教授）

（菊谷記す）